

目次

序章 日本近現代史における「戦後民主主義」

- 1 「戦後民主主義」とは何か 1
- 2 各章の要旨 12

出原政雄

I

第1部 戦前日本の民主主義の展開

第1章 戦前日本の立憲主義と民主主義

- 1 問題への視角と限定 24
- 2 明治前半期における立憲主義と民主主義 25
- 3 明治社会主義者の民主主義論 30
- 4 「大正デモクラシー」期の立憲政治論 36
- 5 戦後日本に向けて 43

出原政雄

24

第2章 「君民共治」という思想

——自由民権運動における政治参加と天皇の関係を中心に——

金井隆典

49

1 戦後民主主義と自由民権運動の邂逅 49

2 「君民共治」の登場 52

3 「明治第二ノ変革」へ——「君民共治」の継承と完成をめざして 55

4 「君民共治」の二つの論理——「哀訴」と「請願」 60

5 「君民共治」の制度化へ 67

第3章 吉野作造のデモクラシー論・再考

平野敬和

73

1 「大正デモクラシー」と「戦後民主主義」の間 73

2 民本主義論の成立とその波紋 76

3 帷幄上奏論と枢密院論 81

4 民本主義と社会主義 84

5 吉野作造の再評価に向けて 89

第4章 『中央公論』における一九三〇年代の議会政治論

田澤晴子

93

1 五・一五事件から日中戦争まで 93

2 五・一五事件後——政党政治の危機 95

- 3 二・二六事件後——議会政治の危機 104
- 4 『中央公論』の議会政治論 111

第5章 大正デモクラシーと戦後民主主義

——松尾尊兎の研究を中心に——

福家崇洋

116

- 1 二つの民主主義の狭間 116
- 2 六全協後と安保闘争 118
- 3 近代化論批判と「急進的自由主義」の発見 121
- 4 歴史の「断絶」を越えて 125
- 5 「戦後」民主主義の「止揚」 130

第2部 戦後日本の民主主義の諸相

第6章 住谷悦治と「戦後民主主義」

梶居佳広

138

——『京都新聞』『夕刊京都』における言論活動を手がかりに——

- 1 ジャーナリストとしての住谷悦治 138

- 2 『京都新聞』『夕刊京都』における言論活動——憲法・天皇制問題を中心に 139
- 3 住谷の戦後構想・デモクラシー観と現実 147
- 4 まとめにかえて 152

第7章 「戦後民主主義」と丸山眞男

大園 誠

158

- 1 「戦後民主主義」と丸山眞男 158
- 2 「戦後民主主義」の特徴①——戦前との断絶 167
- 3 「戦後民主主義」の特徴②——平和主義 171
- 4 「戦後民主主義」への批判 175
- 5 「戦後民主主義」の「座標軸」「羅針盤」としての丸山眞男 178

第8章 日高六郎と「デモクラシーの心理学」

宮下祥子

183

- 1 問題の所在 183
- 2 「人間の解放」というモチーフの生成 184
- 3 「進歩的知識人」として 197

第9章 『婦人民主新聞』（一九四六〜五九年）に見る民主主義観——井上祐子

205

——革新派女性たちによる啓蒙と実践——

1 婦人民主クラブと本章の課題について

205

2 婦人民主クラブの理念と女性の意識改革(第一期 一九四六～四八年)

208

3 講和前後の闘い(第二期 一九四九～五二年)

212

4 保革の対立と女性の連帯(第三期 一九五三～五六年)

216

5 岸政権への反対運動(第四期 一九五七～五九年)

219

6 女性にとっての「戦後民主主義」とは

222

第10章 買春問題と戦後日本の民主主義

林 葉子

226

—— 売春防止法制定をめぐる国会と地方議会での議論を中心に ——

1 公娼廃止と戦後日本の民主主義

226

2 「良家の子女」とその外部——残存する「防波堤」論

229

3 「鏡子ちゃん事件」にみる戦後日本の民主主義の外部

232

4 換骨奪胎される「政治の欠陥」論

236

第11章 山田宗睦にとって「戦後民主主義」とは何だったのか

望月詩史

246

1 『危険な思想家』をめぐる疑問

246

2 「維新百年が勝つか、戦後二十年が勝つか」

247

3 ナシヨナリズムの否定と直接民主主義の可能性

253

第12章 高橋和巳における超越的価値への志向

渡辺恭彦

266

——戦後民主主義のただなかで——

- 1 戦後知識人としての高橋和巳 266
- 2 廃墟へのまなざし 267
- 3 安保闘争のさなかに 271
- 4 超越的価値の不在と「戦後民主主義」 276
- 5 思惟のねじりあいと価値の創造 282

あとがき

人名索引